

100年の技術と信頼を明日へ



2025年度 決算説明会

2026年5月18日

広栄化学株式会社
代表取締役社長 佐々木 康彰

目次

100年の技術と信頼を明日へ



◆ 1 .会社概要	…	2
◆ 2 .2025年度決算概要	…	7
◆ 3 .2026年度業績見通し	…	15
◆ 4 .住友化学による当社の完全子会社化	…	17

目次

100年の技術と信頼を明日へ



◆ 1. 会社概要	… 2
2. 2025年度決算概要	… 7
3. 2026年度業績見通し	… 15
4. 住友化学による当社の完全子会社化	… 17

1. 会社概要

(1) 会社概要

①設立 1917年6月17日

②資本金 2,343百万円

③社員数 416名※ (2026年3月末)

④拠点

東京本社：
東京都中央区日本橋小網町1番8号

千葉事業所：
千葉県袖ヶ浦市北袖25番地

ベルギー事務所：
駐在員（住友化学ヨーロッパ出向）

子会社（KGS株式会社）：
千葉県袖ヶ浦市北袖25番地

※嘱託含む
(派遣社員は含めない)



千葉事業所

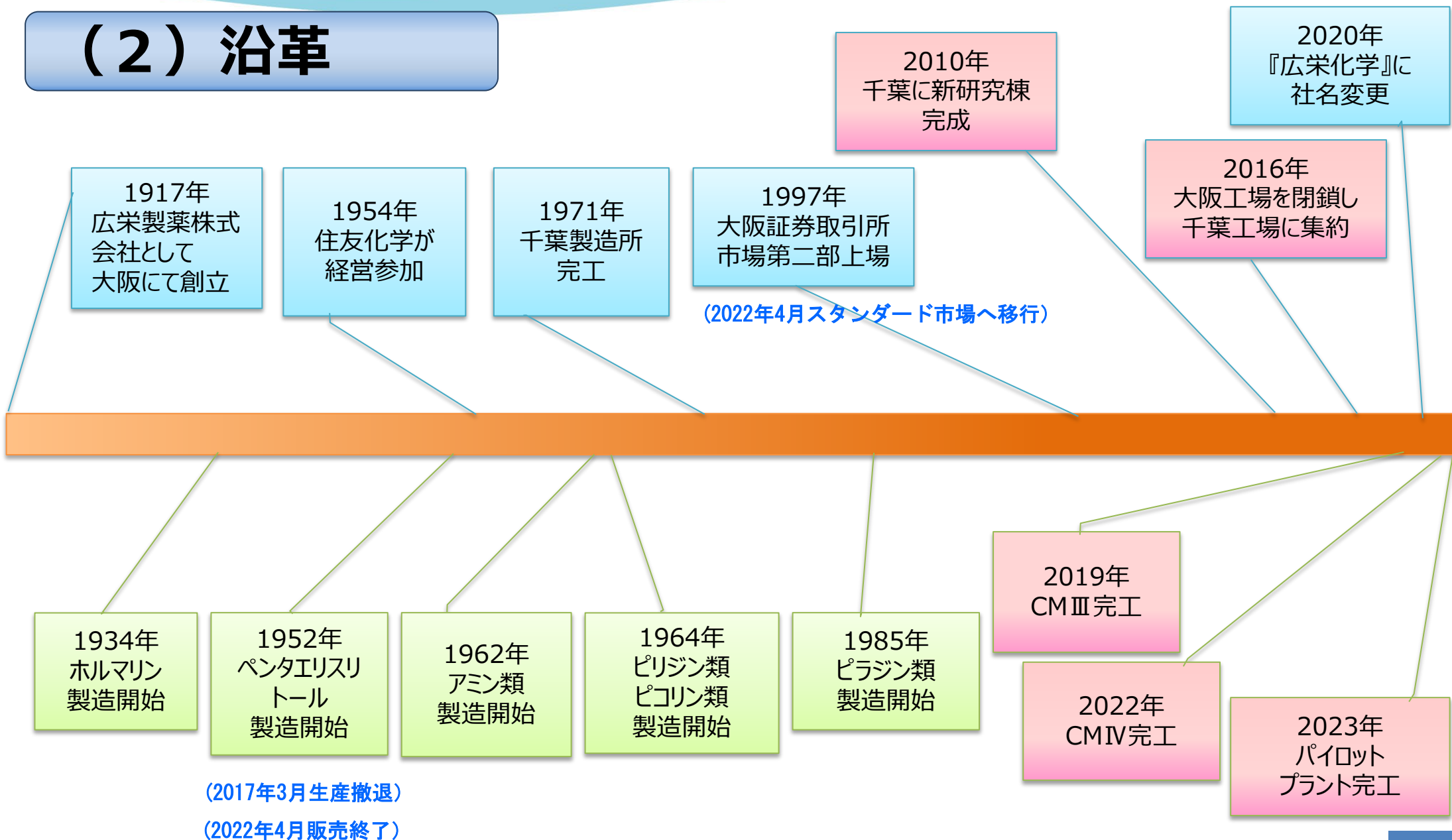


東京本社



1. 会社概要

(2) 沿革



1. 会社概要

(3) 事業内容 ① 基盤製品

広栄化学は、含窒素化合物のパイオニアです

ピリジン類

主な用途

医薬原料・農薬原料
電材関連・溶剤等

国内唯一の合成
ピリジンメーカー



ピラジン類

主な用途

結核薬ピラジナミド

ピラジナミド原料CPZは、
世界シェアNo.1



ホルマリン

主な用途

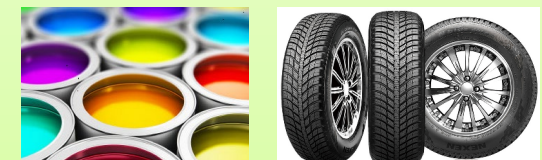
接着剤・塗料・樹脂・酸
化防止剤等

アミン類

主な用途

界面活性剤・樹脂
塗料・潤滑油
ゴム薬・
CO₂吸収材等

100種類以上の特殊アミン製造
少量多品種対応



1. 会社概要

(3) 事業内容 ② カスタム合成製品

医農薬中間体

培ってきた含窒素化合物の合成技術を生かし、
独自工業化プロセスを開発

国内外多数の製薬会社に
医薬中間体を供給

有機金属触媒

ポリオレフィン用重合触媒
であるメタロセン触媒に代表される
有機金属触媒を製造

有機合成技術と禁水・禁酸素
条件を組み合わせ
プロセスを構築

その他受託製品

電子材料関連製品等

(3) 事業内容 ③ 機能性製品

イオン液体

主な用途

帯電防止剤・電解液
溶媒等



ウレタン関連製品

URECKO®
KONPUS®

カスタム合成製品・機能性製品は、主にマルチプラント（CMI、CMI、CMI）で生産
2022年10月に、マルチプラント4系列目（CMI）が稼働。

目次

100年の技術と信頼を明日へ



1 .会社概要	…	2
◆ 2 .2025年度決算概要	…	7
3 .2026年度業績見通し	…	15
4 .住友化学による当社の完全子会社化	…	17

2. 2025年度決算概要

(1) 2025年度決算ハイライト

(単位：百万円)

	2025年度 実績	2024年度 実績	増減 (前期比)	2025年度 (2026/4/21予想)
売上高	17,009	20,018	△3,009	17,000
営業利益	364	566	△201	360
経常利益	255	356	△100	250
当期純利益又は 当期純損失	△5,135	288	△5,423	△5,140
1株当たり利益	△1,049.89円	58.96円	△1,108.85円	△1,050.91円

2. 2025年度決算概要

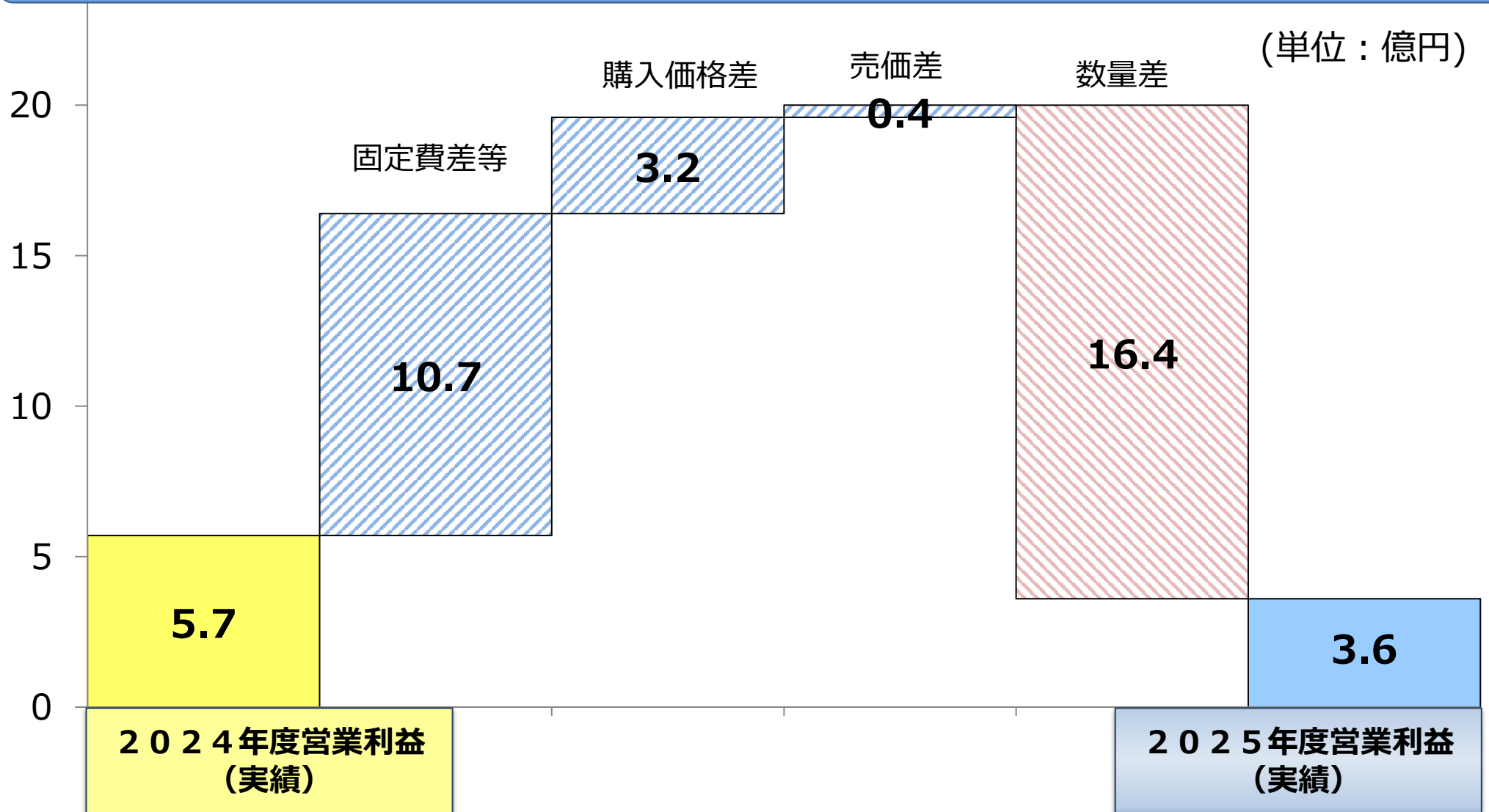
(2) 売上高 … 製品グループ別【前期比】

(単位：百万円)

	2025年度 実績	2024年度 実績	増減	増減の主な内訳
医農薬化学品	6,290	9,281	△2,991	農薬関連 (↓) 腎疾患薬等 (↓) 抗アレルギー薬 (↑)
機能性化学品	7,424	8,043	△618	光学材料関連 (↓) 触媒関連 (↓) イオン液体 (↑)
その他	3,294	2,692	601	接着剤原料 (↑) 樹脂用原料 (↑)
合計	17,009	20,018	△3,009	(売価差+42、数量差△3,051)

2. 2025年度決算概要

(3) 営業利益分析【前期比】



2. 2025年度決算概要

(4) 減損損失の計上について

マルチプラントに係る固定資産につき、64億円の減損損失を計上



● 足元の事業環境

- ・触媒関連 需要減退 ↓
- ・光学材料関連 需要減退 ↓

＜上記によりプラント稼働率が低迷＞

● 今後の展開

- ・上記品目の拡販に加え、電子材料関連や医薬中間体等の分野での新規品開発
- ・既存事業プラントとマルチプラント間の連携強化
- ・カーボンニュートラル関連でのマルチプラント有効活用

2. 2025年度決算概要

(5) 貸借対照表

(単位：億円)

借方科目	(2025年3月末)	(2026年3月末)	増減	貸方科目	(2025年3月末)	(2026年3月末)	増減
[資産の部]	352.2	298.7	△53.5	[負債の部]	136.0	137.8	1.8
流動資産	130.4	143.1	12.7	流動負債	72.6	87.4	14.7
固定資産	221.8	155.6	△66.2	固定負債	63.4	50.4	△12.9
				[純資産の部]	216.2	160.9	△55.3
合計	352.2	298.7	△53.5	合計	352.2	298.7	△53.5
				自己資本比率	61.4%	53.9%	△7.5%

● 主な増減要因 (資産)

棚卸資産	+ 14.0 億円
有形固定資産	△ 76.3 億円※ (※うち減損損失影響△64.0億円)
繰延税金資産	+ 10.2 億円※ (※うち減損損失影響+10.9億円)

● 主な増減要因 (負債)

買掛金	△ 3.6 億円
設備未払金	+ 8.6 億円
借入金	△ 4.7 億円

● 主な増減要因 (純資産)

利益剰余金	△ 54.2 億円
-------	-----------

2. 2025年度決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



(6) キャッシュ・フロー【推移】

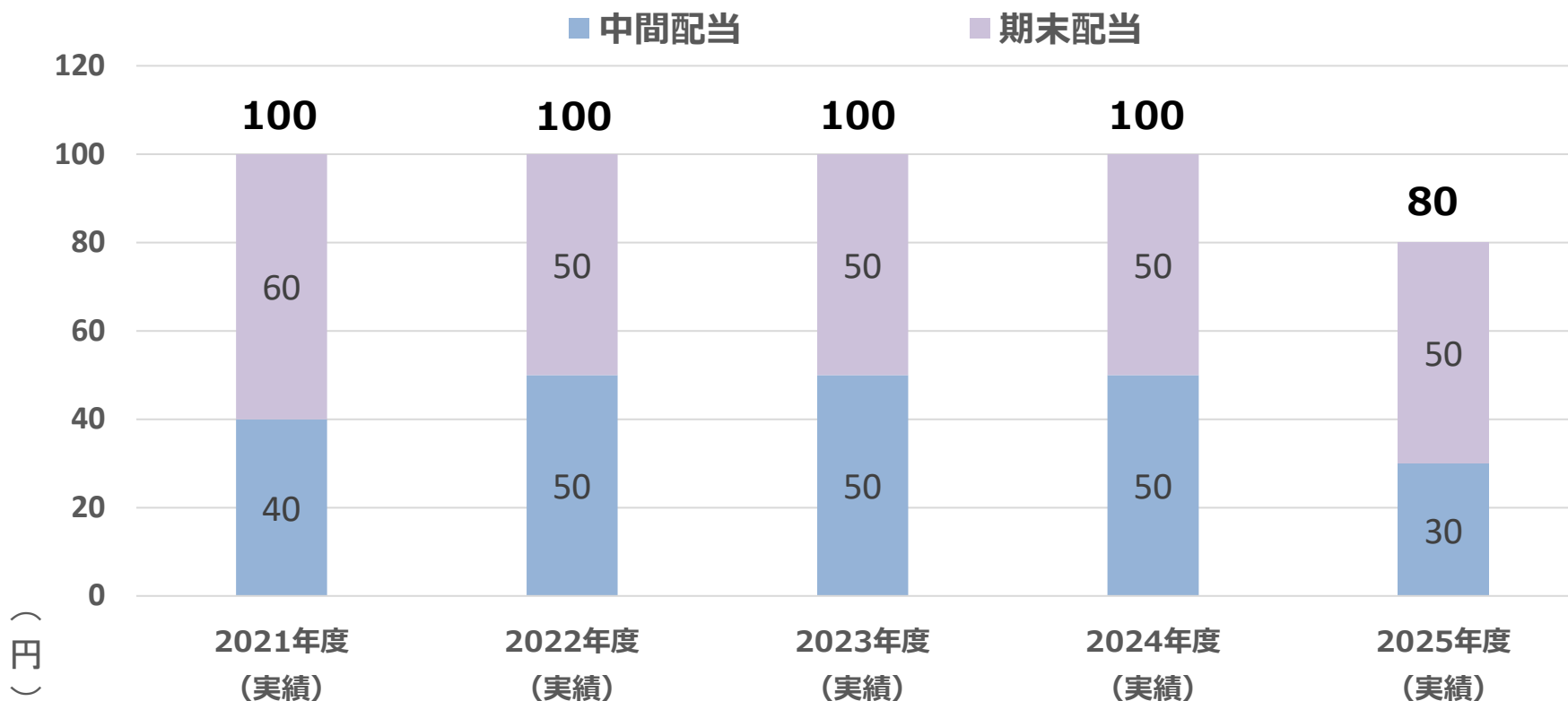
(単位：億円)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
営業キャッシュ・フロー	26.2	△0.3	39.8	47.5	16.5
投資キャッシュ・フロー	△41.9	△50.9	△19.9	△16.6	△6.9
フリー・キャッシュ・フロー	△15.7	△51.2	19.9	30.9	9.6
財務キャッシュ・フロー	18.6	49.1	△18.5	△33.3	△8.8
現金等同等物増減	3.2	△2.1	1.9	△2.4	1.1
期末現預金残高	5.8	3.7	5.6	3.2	4.3
期末借入金残高	52.5	106.5	93.0	64.8	60.2

2. 2025年度決算概要

(7) 配当金【推移】

配当は、株主の長期的かつ安定的な利益の確保と、会社業績の状況、将来的な事業展開に備えるための株主資本の充実などを総合的に勘案し決定する。
配当性向については、原則50%を目途に株主還元を実施する方針とする。



目次

100年の技術と信頼を明日へ



1 .会社概要	… 2
2 .2025年度決算概要	… 7
◆ 3 .2026年度業績見通し	… 15
4 .住友化学による当社の完全子会社化	… 17

3. 2026年度業績見通し

2026年度の事業環境等

製品グループ		2025年度からの増減見通し	
医農薬化学品	医薬関連	回復	(↗)
	農薬関連	横ばい	(→)
機能性化学品	電材関連	回復	(↗)
	触媒関連	前期から微増も低調	(→)
	光学材料関連	前期に引き続き低調	(→)
その他	カーボンニュートラル関連	横ばい	(→)
	樹脂工薬関連	横ばい	(→)
中東情勢影響			
原料調達	当面の生産分は確保見込み (将来の見通し困難)		
原料価格	原料価格の急騰懸念あり。販売価格への即時転嫁が急務 (見通し困難)		
為替推移	現状は2025年度に比べ円安で推移 (将来の見通し困難)		
完全子会社化影響			

<2026年7月上場廃止予定のため、業績予想は非公表>

目次

100年の技術と信頼を明日へ



1 .会社概要	…	2
2 .2025年度決算概要	…	7
3 .2026年度業績見通し	…	15
◆ 4 .住友化学による当社の完全子会社化…		17

4. 住友化学による当社の完全子会社化

100年の技術と信頼を明日へ

KOCI



(1) 経緯及び目的

住友化学の提案

- 今後の更なる事業拡大のためには、両社がグローバルな事業機会を的確に捉え、迅速かつ機動的に経営戦略を遂行することがより一層重要
- そのためには、より一体的なグループ運営の枠組みが必要 ⇒ 完全子会社化を提案

当社の認識

- 上記提案を受けて、完全子会社化による協業関係をさらに強化することで、シナジーの発揮が可能と判断

▶ 両社において慎重に検討した結果、
広栄化学が住友化学の完全子会社になることは、両社の企業価値向上に資するとの認識で一致

4. 住友化学による当社の完全子会社化

100年の技術と信頼を明日へ

KOCHI



(2) 想定されるシナジー

両社の技術力を組み合わせることによる技術的發展

- 新規ニーズの協同探索等、更なる技術的發展余地を追求可能
- 特に当社の低温硬化触媒、イオン液体等の特徴的技術の活用による新たな市場展開、新製品開発の可能性

当社マルチプラントを活用した住友化学の高度化低分子CDMO事業の事業規模拡大

- 住友化学の経営資源の活用によって、当社マルチプラントのGMP適合設備への改造を検討
- 顧客ニーズに合致した生産体制を構築することにより、国内外の多様な需要に応え、事業規模を拡大

両社の一体運営による事業活動の迅速化・効率化

- 意思決定の迅速化とともに、情報、人材等の双方の経営資源のより一層高度かつ柔軟な相互活用が可能

その他

- 当社の上場維持に係る業務負担およびコストの削減

4. 住友化学による当社の完全子会社化

100年の技術と信頼を明日へ

KOCHI

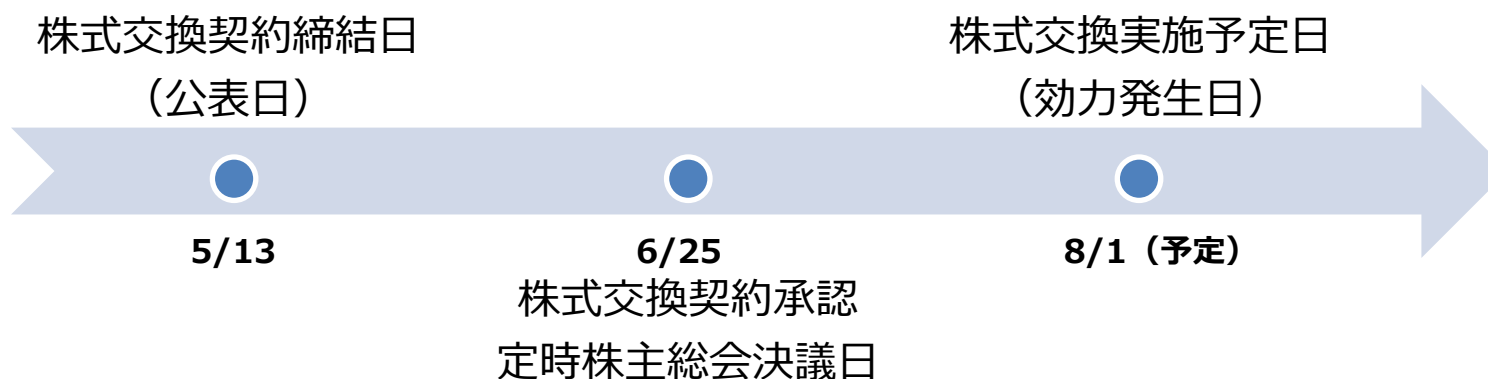


(3) 株式交換の概要

1) 割当比率

	住友化学 (株式交換完全親会社)	広栄化学 (株式交換完全子会社)
割当比率	1	4.91

2) スケジュール



ご清聴ありがとうございました。

【注意事項】

本資料には、当社に関する業績その他の予想、見通し、目標、計画その他の将来に関する事項が含まれています。これらの事項は、作成時点において入手可能な情報による当社の仮定、見積り、見通しその他の判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。したがって、その後のさまざまな要因により、予想・計画・目標等が記載どおりに実現しない可能性や、実際の業績、研究開発の成否・進捗その他の見通し等が記載内容と大きく異なる結果となる可能性があります。

Q & A

<音声質問のみ受付いたします>

- ・ご質問される際は“挙手”をクリックしてください。（順番に指名させていただきます。）
- ・会社名・ご氏名がわかるように表示名の設定をお願いいたします。
- ・お時間の関係ですべての質問にはお答えできないことがありますので、予めご了承ください。